

福生市高齢者・障害者生活実態調査

報告書

概要版

1. 調査実施の目的

令和2年度に予定している「福生市介護保険事業計画（第8期）」及び「福生市第6期障害福祉計画等」を策定するにあたり、基礎資料として活用するため、ご意見・ご要望などをお伺いするアンケート調査を実施しました。

2. 調査方法

調査地域 : 福生市全域

調査基準日 : 令和元年10月1日

調査期間 : 令和元年11月18日（月）～令和元年12月13日（金）

※認定調査員による聞き取り調査は令和2年1月31日（金）まで

《配布・回収方法》

調査名		調査区分	配布・回収方法
高齢者生活実態調査	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	一般高齢者 要支援（認定）者	郵送配布・郵送回収
	在宅介護実態調査	要介護（認定）者	郵送配布・郵送回収 認定調査員による聞き取り調査
障害者生活実態調査		身体障害者 知的障害者 精神障害者 難病患者	郵送配布・郵送回収

3. 回収結果

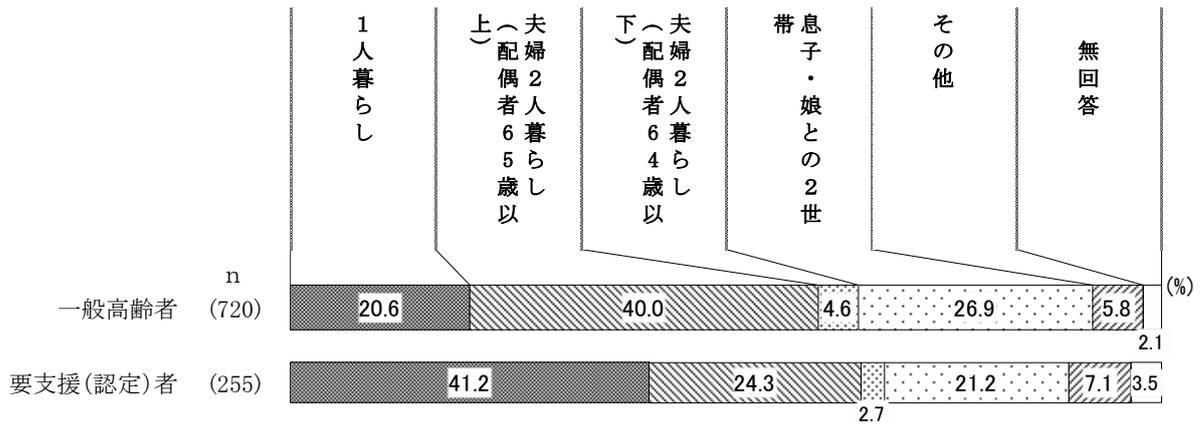
調査名		配布数	有効回収数	有効回収率
高齢者生活実態調査	介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	1,681件	1,048件	62.3%
	在宅介護実態調査	972件	476件	49.0%
障害者生活実態調査		2,701件	1,367件	50.6%
		5,354件	2,891件	54.0%

高齢者生活実態調査の結果

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 家族や生活状況について

(1) 家族構成

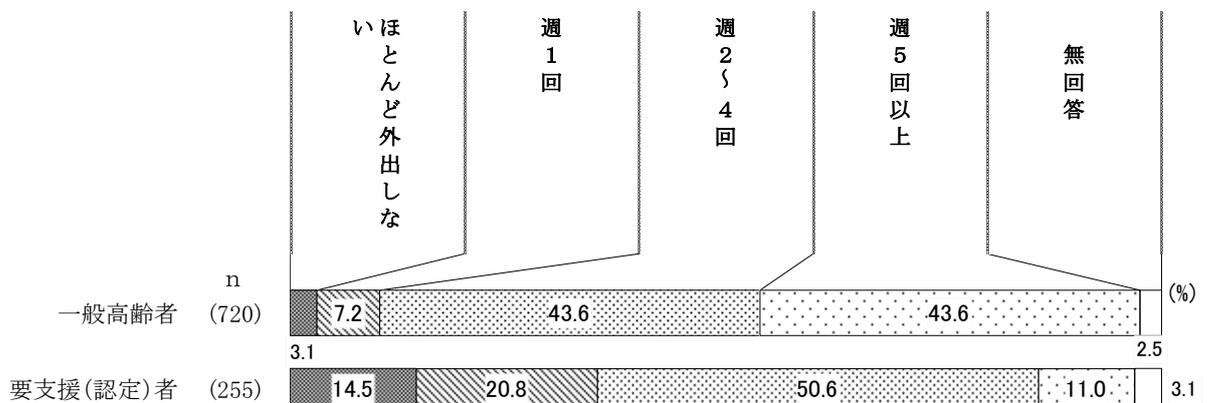


一般高齢者は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が4割と最も多くなっています。要支援者は「1人暮らし」が4割前半（41.2%）と最も多くなっています。

一般高齢者と比べて要支援（認定）者は夫婦2人暮らしや息子・娘との2世帯が減少し、1人暮らしが多くなっています。

2. からだを動かすことについて

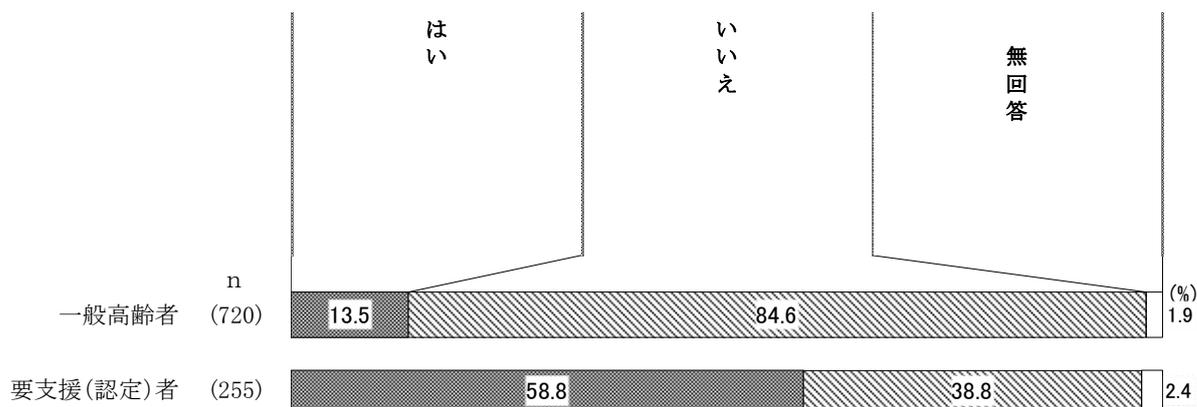
(1) 外出頻度



一般高齢者は「週2〜4回」と「週5回以上」がともに4割前半（43.6%）ともっとも多くなっています。要支援者は「週2〜4回」が約5割（50.6%）と最も多く、次いで「週1回」（20.8%）、「ほとんど外出しない」（14.5%）と続いています。

一般高齢者と比べて要支援（認定）者は外出をしない方が多く、外出回数も少なくなっています。

(2) 外出を控えているか

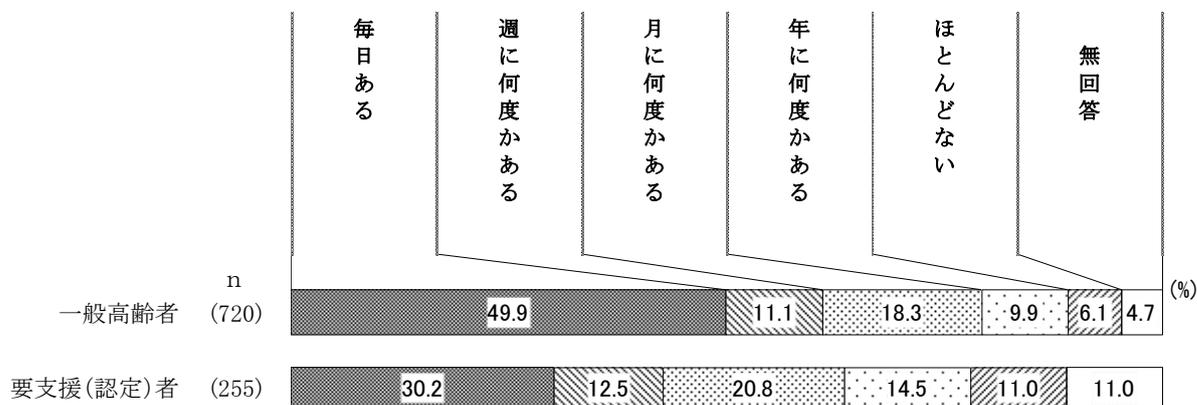


一般高齢者は「いいえ」(84.6%)が8割台半ばとなり「はい」(13.5%)より多くなっていますが、要支援者は「はい」(58.8%)が5割台後半で「いいえ」(38.8%)より多くなっています。

一般高齢者と比べて要支援(認定)者は外出を控えている方が4倍以上と多くなっています。

3. 食べることについて

(1) 「共食」の機会について

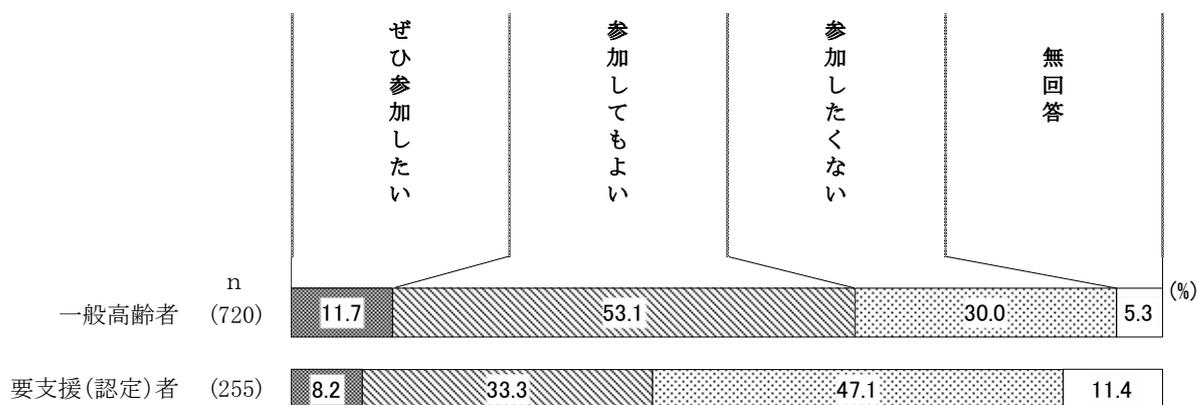


一般高齢者、要支援者ともに「毎日ある」が最も多く、一般高齢者では約5割(49.9%)となっていますが、要支援者では「月に何度かある」が約2割(20.8%)、「月に何度かある」が1割半ば(14.5%)となっています。

一般高齢者と比べて要支援(認定)者は毎日食事をとる機会が少なくなっています。

4. 地域での活動について

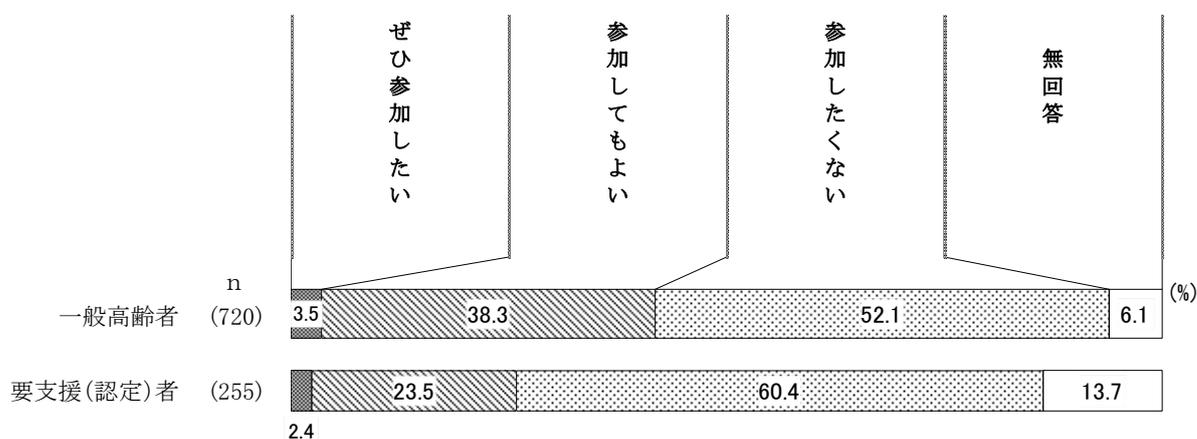
(1) 参加者としての地域づくり活動への参加意向



一般高齢者は「参加してもよい」(53.1%)が、要支援者は「参加したくない」(47.1%)が、それぞれ最も多い回答となっています。

一般高齢者と比べて要支援(認定)者は地域づくり活動への参加意向が少なくなっています。

(2) 企画・運営(お世話役)としての地域づくり活動への参加意向

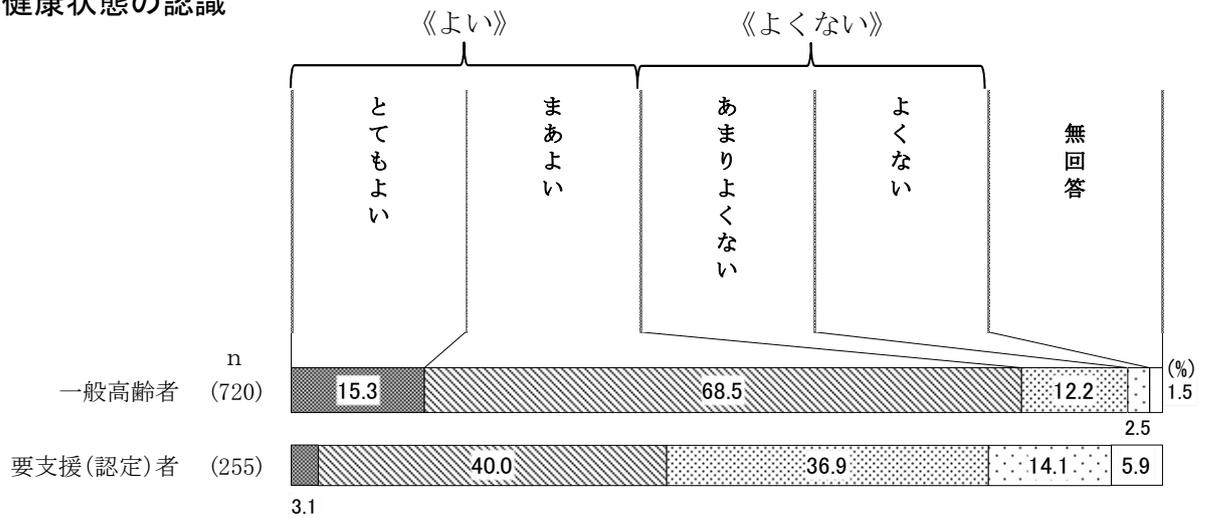


一般高齢者、要支援者ともに「参加したくない」(順に52.1%、60.4%)が最も多く、一般高齢者は「参加してもよい」(38.3%)も、比較的多くなっています。

一般高齢者と比べて要支援(認定)者は地域づくり活動への参加意向が少なく、「参加したくない」が多くなっています。

5. 健康について

(1) 健康状態の認識



一般高齢者は「まあよい」という回答が6割台後半（68.5%）で最も多くなっています。要支援者は「まあよい」が4割で最も多く、「あまりよくない」（36.9%）が続いています。

一般高齢者は健康状態を《よい》と認識している方が8割以上ですが、要支援（認定）者は《よくない》と認識している方の割合が《よい》と認識している方の割合を上回っています。

在宅介護実態調査

1. 主な介護者について

(1) 主な介護者

「子」が4割台半ば（45.4%）で最も多く、次いで「配偶者」（33.2%）が多くなっています。

(2) 主な介護者の年齢

「60歳代」が2割台半ば（25.2%）で最も多く、次いで「50歳代」（21.0%）、「80歳以上」（19.9%）、「70歳代」（18.8%）と続いており、60歳代以上が6割台前半（63.9%）を占めています。

(3) 主な介護者が行っている介護等

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が約8割（80.1%）で最も多く、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（78.8%）、「食事の準備（調理等）」（76.1%）、「外出の付き添い、送迎等」（70.8%）と続いています。

(4) 「介護離職」の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」という回答が5割台前半（53.3%）で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職は除く）」が1割未満（8.8%）となっています。

(5) 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が2割台後半（28.2%）で最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」（22.7%）、「掃除・洗濯」（17.9%）となっています。一方で、「特にない」が2割台後半（27.9%）となっています。

2. サービスの利用について

(1) 「住宅改修」「福祉用具貸与・購入」以外の介護保険サービスの利用の状況

「利用している」が5割台後半（58.2%）と多く、「利用していない」は3割台半ば（34.5%）となっています。

(2) 介護保険サービスを利用していない理由

「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が4割台前半（43.3%）で最も多く、次いで「家族が介護するため必要ない」（28.0%）、「自分にサービス利用の希望がない」（15.9%）と続いています。

3. 介護者に対する質問について

(1) 主な介護者の現在の勤務形態

「働いていない」が4割台後半（47.1%）で最も多く、次いで「パートタイムで働いている」（17.6%）、「フルタイムで働いている」（15.1%）と続いています。

(2) 「仕事と介護の両立」に効果があると思う職場からの支援

「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」が2割台前半（23.1%）で最も多くなっています。次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（22.4%）、「労働時間の柔軟な選択」（19.9%）、「介護をしている従業員への経済的な支援」（18.6%）と続いています。

(3) 主な介護者は今後も働きながら介護を続けていけそうか

「問題はあるが、何とか続けていける」が4割台後半（48.7%）で最も多く、次いで「問題なく続けていける」（22.4%）と続いています。また、「続けていくのはかなり難しい」の割合は、1割未満（7.1%）となっています。

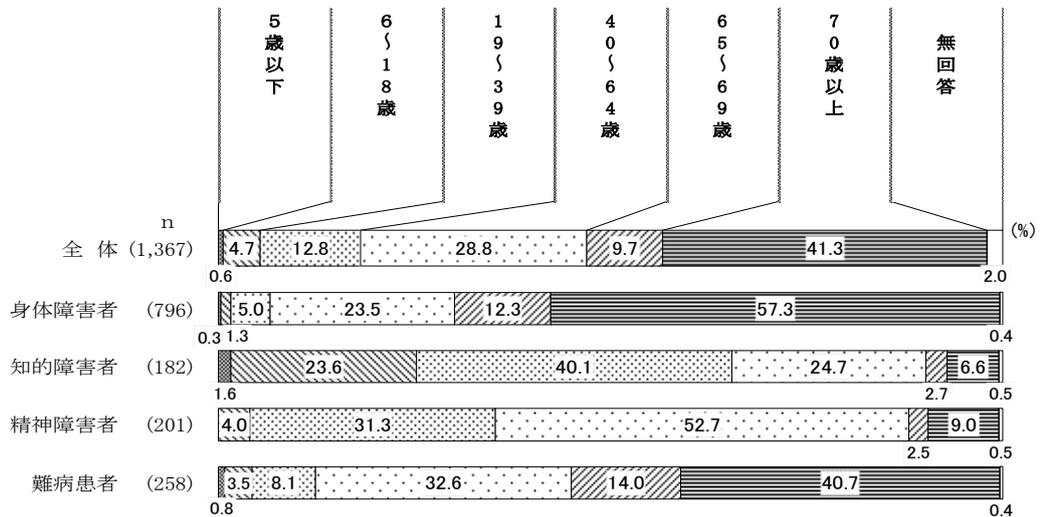
(4) 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等

「認知症状への対応」が2割台半ば（26.7%）で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」（20.4%）、「夜間の排せつ」（18.3%）と続いています。

障害者生活実態調査の結果

1. 回答者の基本属性

(1) 年齢



身体障害者と難病患者では「70歳以上」、知的障害者では「19～39歳」、精神障害者では、「40～64歳」が最も多くなっています。

(2) 身体障害者手帳の取得状況と等級

身体障害者を除く身体障害者手帳の取得状況は、難病患者の4割前半（43.8%）が取得しています。また、手帳を取得した方の等級は、「1級」（33.0%）、「4級」（24.1%）が多くなっています。

(3) 愛の手帳の取得状況と度数

知的障害者を除く愛の手帳の取得状況は、身体障害者・精神障害者・難病患者の5%以下の方が取得しています。また、手帳を取得した方の度数は、「4度」（46.7%）が多くなっています。

(4) 精神障害者保健福祉手帳の取得状況と等級

精神障害者を除く精神障害者保健福祉手帳の取得状況は、身体障害者・知的障害者・難病患者の5%未満の方が取得しています。また、手帳を取得した方の等級は、「2級」（55.2%）が多くなっています。

(5) 難病及び人工透析にかかる医療券の取得状況

難病患者を除く難病及び人工透析にかかる医療券の取得状況は、身体障害者の1割前半（14.2%）が取得しています。

（6）障害の種類又は病名

障害の種類については、「肢体不自由」が2割台半ば(25.2%)と多く、次いで「難病」(19.3%)、「内部障害」(15.4%)となっています。

主な病名は、「パーキンソン病」(27件)が最も多く、「クローン病」(13件)「全身性エリテマトーデス」(10件)、「サルコイドーシス」と「潰瘍性大腸炎」(ともに9件)の順と続いています。

2. 日常生活について

（1）主な支援者

身体障害者と難病患者は「配偶者」が4割以上(順に40.6%、41.9%)と最も多くなっています。知的障害者と精神障害者は「親」が最も多く(順に61.0%、34.8%)、特に知的障害者は6割台前半と多くなっています。また、「支援の必要はない」と回答した割合は、身体障害者、難病患者(順に15.1%、19.8%)が知的障害者、精神障害者(順に1.6%、5.0%)と比べて多くなっています。

（2）主な支援者の年齢

身体障害者、精神障害者、難病患者は「70歳代」(順に20.2%、19.4%、19.8%)、知的障害者は「40歳代」(26.4%)が最も多くなっています。

（3）外出する際の最も多い手段

身体障害者、知的障害者、難病患者は「自家用車」(順に33.9%、24.7%、38.8%)、精神障害者は「徒歩」(26.9%)が最も多くなっています。

（4）外出するときの主な支援者

身体障害者は「支援の必要はない」が約3割(29.6%)と最も多く、次いで「配偶者」(29.3%)となっています。知的障害者は「親」が4割台後半(48.9%)と最も多く、次いで「支援の必要はない」(19.8%)となっています。精神障害者は「支援の必要はない」が約3割(30.3%)と最も多く、次いで「親」「配偶者」(ともに19.4%)となっています。難病患者は「配偶者」が3割台半ば(34.9%)と最も多く、次いで「支援の必要はない」(31.4%)となっています。

3. 就労について

（1）現在の就労状況

身体障害者と精神障害者は「働けない状況にある」(順に28.5%、36.3%)が最も多くなっています。知的障害者と難病患者は「今後も現在の仕事を続けたい」(順に37.9%、30.2%)が最も多くなっています。

(2) 働く場や活動の場を充実させるため、必要と思うもの

身体障害者と難病患者は「特に必要なものはない」がともに3割台後半(37.2%)で最も多くなっています。知的障害者と精神障害者は「自分に合う仕事の紹介や相談をしてくれるところ」が5割以上(順に52.7%、58.7%)で最も多く、次いで「日常生活の支援、日常的な相談や地域交流活動を行う施設」(順に38.5%、38.8%)、「社会的自立や訓練を行う施設」(順に36.3%、33.3%)となっています。

4. 日頃の活動について

(1) 楽しみや生きがい

すべての種別において、「趣味・娯楽」が最も多くなっています。

(2) 今後やってみたいこと

身体障害者、知的障害者、精神障害者は「趣味・娯楽」が最も多く、次いで「旅行」となっています。難病患者は「旅行」が最も多く、次いで「趣味・娯楽」となっています。また、「特になし」の割合はすべての種別において2割以上となっています。

(3) 日中主に過ごしている場所

身体障害者、精神障害者、難病患者は「自宅」が最も多いですが、知的障害者は「自宅」の割合は1割台前半(13.7%)と少なく、「会社等」(18.7%)、「通所施設(その他)」(18.1%)、「通所施設(就労移行・継続支援事業所)」(17.0%)が多くなっています。

(4) 「小・中学校・高校・職業訓練校」又は「特別支援学校」を選択した方の放課後や休日を過ごす場所

すべての種別において自宅が最も多く、7割以上となっています。

5. 福祉サービスについて

(1) 現在、利用しているサービス量の満足度

身体障害者、精神障害者、難病患者は「サービスを利用していない」が最も多くなっています。知的障害者は「サービス量は充分である」が約4割(40.7%)で最も多くなっています。

(2) 今後のサービス利用意向

身体障害者と知的障害者は「家族との同居ができなくなったら、グループホームや施設に入所したい」が最も多く(順に25.8%、34.1%)、次いで「自宅で在宅サービスを継続利用したい」(順に23.7%、14.3%)となっています。精神障害者と難病患者は「自宅で在宅サービスを継続利用したい」が最も多く(順に25.4%、26.7%)、次いで「家族との同居ができなくなったら、グループホームや施設に入所したい」(順に19.4%、22.5%)となっています。

(3) 障害又は難病が原因で人権を損なう扱いを受けた経験

すべての種別において「特にない」が最も多くなっていますが、知的障害者の「差別用語を使われた」(20.3%)、精神障害者の「暴言・暴力による虐待を受けた」(20.4%)と「希望する仕事に就職できなかった」(17.4%)の割合が多くなっています。

(4) 「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」の認知度

すべての種別において「名称も内容も知っている」の割合は2割未満と少なく、「名称も内容も知らない」が3割以上になっています。

(5) 生活上の悩みや困ったことの相談先

すべての種別において「家族・親族」の割合が最も多くなっています。その中で、精神障害者は「家族・親族」の割合が2割台後半(27.9%)と他の種別と比べて少ないですが、「医師・看護師」の割合が1割台半ば(15.4%)と他の種別よりも多くなっています。

(6) 市の行事、福祉、保健に関する情報の入手先

すべての種別において「市の広報・ホームページ・情報メール」の割合が最も多くなっており、次いで「市役所」、「家族・親族」の順となっています。知的障害者と精神障害者は「市の広報・ホームページ・情報メール」が約4割(順に39.0%、40.3%)で、身体障害者と難病患者に比べて少ないですが、「市役所」、「家族・親族」の割合が、身体障害者と難病患者の割合より多くなっています。

(7) 今後、市に期待すること

すべての種別において「障害福祉サービスの充実」の割合が最も多くなっています。次いで、身体障害者は「障害者に配慮したまちづくり」(27.4%)、「障害福祉サービスに関する情報提供」(25.3%)の順となっています。知的障害者は「就労支援の充実」(34.6%)、「障害者に配慮したまちづくり」、「相談支援の充実」(ともに30.2%)の順となっています。精神障害者は「相談支援の充実」(38.3%)、「就労支援の充実」(31.8%)の順となっています。難病患者は「障害福祉サービスに関する情報提供」(24.8%)、「災害時の対応に関する情報提供」(23.3%)の順となっています。

6. 災害時の対応について

(1) 災害発生時、数日間医療機関や福祉サービス等を利用できないとき、心身の健康面や生活面で困ること

身体障害者、知的障害者、難病患者は「特にない」の割合が最も多くなっていますが、精神障害者は「治療や投薬を受ける必要がある」が約3割(30.3%)で最も多くなっています。次いで、身体障害者は「治療や投薬を受ける必要がある」(18.8%)、「普段の自分の生活が変わってしまう」(13.7%)の順となっています。知的障害者は「普段の自分の生活が変わってしまう」(29.7%)、「治療や投薬を受ける必要がある」(10.4%)の順となっています。精神障害者は「普段の自分の生活が変わってしまう」(29.4%)、「特にない」(18.4%)の順となっています。難病患者は「治療や投薬を受ける必要がある」(24.0%)、「人工透析を受けている」(18.6%)の順となっています。

(2) 災害発生時に自力で避難することができると思うか

身体障害者、精神障害者、難病患者は「避難できる」が5割台前半を超えて多くなっています。一方で知的障害者は「支援がないと困難だと思う」が約6割（59.3%）と多くなっています。

(3) 災害発生に伴う避難時に、身近に支援してくれる人

身体障害者と難病患者は「配偶者」の割合が3割台後半を超えて（順に37.4%、42.2%）最も多くなっており、次いで「子ども」（順に17.2%、15.5%）が多くなっています。知的障害者と精神障害者は「親」の割合が約3割を超えて（順に52.7%、30.3%）最も多くなっています。知的障害者は、次いで「事業所の職員」（17.6%）が多くなっています。精神障害者は、次いで「配偶者」（20.9%）が多くなっています。